

第9回わくわくコンサート

代表者 白井優衣 (教育学部学校教育教員養成課程
教科教育コース 保健体育科領域4年)

1. 目的と概要

一般の音楽会に参加することが難しい児童(特別支援学級等も含む)と保護者、サポートの必要な方等を対象とした音楽鑑賞会(「第9回わくわくコンサート」)を開催し、音楽鑑賞の機会を提供すると同時に、サポートの必要な方もそうでない市民の方々も共に集える「共生」の場の提供となることを目指します。

運営は、香川大学の学生を中心に構成された実行委員会が行い、サークル、卒業生・修了生、教職員、地域の方々、児童・生徒のボランティア、企業の協力を得ることで、地域社会との交流も目的とします。

この事業は、これまでに多くの市民の方々にご来場いただき、好評を得てきました。「わくわくコンサート」を改善し、継続的に実施することを目的とします。

- ◆行事名 みんなで楽しむ音楽鑑賞会「第9回わくわくコンサート」
- 期日：2月14日(日) 13:00~15:00(開場12:30)
- 場所：サンポートホール高松 3F 大ホール
- 入場無料 (整理券不要)
- 主催：第9回わくわくコンサート実行委員会
- 後援：イタリア大使館 香川県 香川県教育委員会 高松市 高松市教育委員会
- 助成：(財)百十四銀行学術文化振興財団
- 協賛：(公財)南海育英会 松楠会(香川大学教育学部同窓会)
幸楠会(香川大学教育学部後援会)
- 協力：香川大学EU情報センター(香川大学図書館)
(株)レアスイート ヤマハミュージックリテイリング高松店



2. 実施期間(実施日)

平成28年2月14日

3. 成果の内容及びその分析・評価等

一般の音楽会に参加することができにくい方々はもちろん、子どもからお年寄りまで様々な年齢層のお客様に楽しんでいただけるプログラムを用意しました。また、入場無料ということにこだわり、音楽会に参加したい人なら誰でも参加することのできる音楽会を運営しました。「音楽鑑賞会」の今年のテーマは「V」、テーマ国はイタリアとし、イタリアを代表する作曲家（ヴェルディ、ヴィヴァルディ）やイタリアに関する作品を集めてプログラムを構成しました。音楽鑑賞会と同時に、その音楽を育んだイタリアの地理、歴史、文化などにも関心を深め、「音楽鑑賞会」をより身近に楽しむための企画イベントを行いました。演奏においては、プロとして活躍されている演奏者や地元で活躍されている方を演奏者としてお招きし、市民の方々にレベルの高い音楽を提供することができたと考えます。また、今回は大学でダンスを専門とする教員を中心としたダンスの上演も行いました。地元の演奏者たちと大学生、教職員が一体となって、元気な舞台をお届けすることができました。

運営では、学生を中心とする実行委員会を組織しました。様々な学生がそれぞれの得意分野を生かし、専門分野の先生方のアドバイスを得ながら運営しました。また、香川大学の全6学部の学生や大学内の様々なサークル、卒業生・修了生、教職員、地域の方々にもご協力頂きました。たとえば楽器体験などでは、イベント前に楽器の専門家からの指導も受け、ボランティアは知識をもってイベントを行うことができました。当日は100名を越える学生ボランティアが参加し、特別支援学校の生徒も一緒に活動しました。普段は全く異なる背景を持って生活している人同士が接し、お互いの理解を深め、一つの目標に向かってともに行動する機会になりました。

プログラム I Italia

1. コレリ：ラ・フォリア Variation
2. プロコフィエフ：《ロメオとジュリエット組曲 第2番》より（ダンス公演）Verona
3. イタリア民謡：「帰れソレントへ」「オ・ソレ・ミオ」
4. V. モンティ：チャルダッシュ Violin

プログラム II 'V'

1. A. ヴィヴァルディ：《四季》「春」「冬」 Vivaldi
2. イタリア・オペラより
プッチーニ：《蝶々夫人》「ある晴れた日に」 Un bel di, vedremo
《トゥーランドット》「誰も寝てはならぬ」 Vincerò!
ヴェルディ：《椿姫》「乾杯の歌」 Verdi
3. メンデルスゾーン：交響曲第4番《イタリア》 Vivace

●アドバイザー

植田和也 大久保智生 小川育子 清國祐二 坂井聡 新見治 平篤志 高木由美子 中谷博幸 藤元恭子 北條充敏 松下幸司
山神真一 米村耕平 渡邊史郎

協力：香川大学吹奏楽団 香川大学医学部管弦楽団 香川大学合唱団 香川大学児童文化研究会 メルシー

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、純粹に地域の方々に音楽の素晴らしさを伝えることができたのではないかと思います。普段コンサートホールで音楽を聴きに來たいと願っていてもなかなか來ることができない方もたくさんいらっしゃいます。コンサートを無償とし、気軽に立ち寄れるコンサートとすることにこだわりました。また、幼児教育を学ぶ学生が中心となって託児を行ったり、特別支援の専門の学生・教員のアドバイスのもと特別な支援を必要とする方々をサポートしたりと、誰でも参加していただける体制を作りました。これらの工夫により、市民が共に集える「共生」の場を提供するという目標に少し近づけたのではないかと考えます。大学にはたくさんの行事やイベントがありますが、学部の枠を越えて、さらに地域の方々の協力も得ながら一つのイベントを作り上げるものは多くありません。「第9回わくわくコンサート」のように大学と地域が共に作り上げるイベントは、大学と地域が共存し、刺激しあうことで、大学と地域の活性化の両方につながると感じます。大学生と市民の方々が直接に交流する場となることで、互いをより身近に感じることができました。

また、一般の音楽会に参加することが難しい児童(特別支援学級等も含む)と保護者、サポートの必要な方等を対象とすることで、様々な人が「共生」できる地域社会の推進を考える良い機会となりました。互いに助け合うこと、支えあうことでみんなが不自由なく、楽しめるということを大学や地域に訴えかけられたイベントになりました。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

この事業を通して特に2つ考えさせられたことがあります。

1つ目は、連携する大切さです。このコンサートは、コンサート活動が中心ですが、音楽を専門とする人たちだけではこの行事は成立しません。香川大学の全6学部の学生や大学内の様々なサークル、卒業生・修了生、教職員、地域の方々の協力があってこそ成り立ち、皆様に喜んでいただけるコンサートとして行事の役割を果たせます。普段の学校生活の中でこのように異なる背景を持つ人たちが一度に集まる機会はなかなかありません。自分の専門分野を生かすと同時に、他の専門分野を学ぶ学生たちから知識を得ることで、自分の専門とは違う視点で様々なことを見つめなおすこともできました。また、イベント開催にあたり、専門家から直接指導を頂くことで、より質の高い演奏・運営を行うことにつながりました。多様な視点で物事を捉え、考え、発信することの多い一年だったように感じます。普段の学生生活では知り合う機会のなかった方たち同士で連携するのですから、意見の食い違いでぶつかりあうことももちろんありました。しかし、それは互いに本気だったからこそだと思えます。ご来場の皆様にコンサートを楽しんでいただきたいという一つの目標に向かってみんなで本気で頑張れたことが、結果としてコンサートの成功につながったのだと思えます。

2つ目は、気づいて、実行する力です。これは、簡単なようではありますが、大学生にとってとても難しい課題です。わくわくコンサートは、一般の音楽会に参加すること

が難しい児童(特別支援学級等も含む)と保護者、サポートの必要な方等を対象としています。毎年多くのお客様がご来場して下さる中で、不安ながらに來ている方、困ったことがある方など、様々なお客様が來場されます。日常生活では、気づかなかったり、見て見ぬふりをしてしまったりする場面に多く遭遇します。しかし、このコンサートは、市民が共に集える「共生」の場の提供を目的としています。今回、実行委員、ボランティアは困っている人を見つけると声をかけに行ったり、手伝ったりと、気づいたらすぐに体が動いていました。その行動は、お客様に対してだけではありません。実行委員、ボランティア同士の間でも、たくさんの「声掛け」がありました。この「声掛け」の多さが、お客様の満足度を高めたと考えます。互いに助け合うこと、支えあうことでみんなが不自由なく、同じだけ楽しめるということを実感できました。これからは、「気づいたときにすぐ行動」ということをこれまでよりも心にとめて生活していきます。

6. 反省点・今後の抱負(計画)・感想等

反省会で出た主な反省点は、以下の8点です。

- ・イベントの配置(2階のスペースの有効な活用の検討)
- ・サークルとの連携を深めること
- ・楽器体験の実施時間についての検討を行う
- ・ホール内のドアの警備(内と外の連携)をより深める
- ・ホールの見取り図を掲示してはどうか
- ・コンサートの途中で騒ぎ始めた子どもへの対応について
- ・途中入場できないことをわかりやすく掲示などで周知する
- ・楽屋のお菓子の種類検討

今年は、昨年よりもよりスムーズに運営することができました。昨年の課題を改善できたことが円滑な運営につながったと思います。とくに今年は4年生の責任感が強く、自主的に動いてくれて全体の動きが良くなりました。この4年生の姿を見て、下級生も来年への緊張感が出てきた様子でした。全員で緊張感をもって、最後までやり抜く覚悟を決めてやるからこそ成功するイベントであると考えます。これでまた来年につながりました。

次回、「第10回わくわくコンサート」は平成29年2月12日(日)に開催が決められました。来年は「第10回」ということで一つ区切りの年となります。今年の実省をしつかりと行い、改善を積み重ねてよりわくわくできるコンサートを作り上げていきます。

7. 実施メンバー

代表者	白井 優衣	(教育学部4年)		
構成員	中村 幸歩	(教育学部3年)	高橋 弓香子	(教育学部4年)
	中川 晴加	(教育学部3年)	山本 瞳	(教育学部3年)
	小林 遼香	(教育学部4年)	井口 真由香	(教育学部3年)
	山辺 未希	(教育学部2年)	杉本 恭子	(教育学部2年)
	石村 成美	(教育学部2年)	森宗 利晃	(教育学部4年)

笹井 詩織	(教育学部 2 年)	国代 侑里	(教育学部 3 年)
島内 知美	(教育学部 3 年)	康永 哲功	(教育学部 4 年)
福永 拓海	(教育学部 2 年)	吉井 健人	(教育学部 3 年)
石出 悠希	(教育学部 4 年)	十河 彩峰	(教育学部 4 年)
寄能 ひとみ	(教育学部 3 年)	正 真帆	(教育学部 3 年)
小原 乃梨子	(教育学部 4 年)	後藤 花歩	(教育学部 1 年)
野村 睦人	(教育学部 2 年)	山崎 遥菜	(教育学部 2 年)
河多仁	(教育学部 3 年)	朴辰浩	(教育学部 3 年)
大塚 真由	(教育学部 1 年)	尾辻 健太	(農学部 1 年)
島津 朱里	(法学部 1 年)	高田 恭花	(経済学部 1 年)
青山 夕夏	(教育学部教員)		

出演者・ボランティア



【事前】広報（FM高松・RNCラジオ出演）



【本番当日】

○プログラムⅠ Italia

1. コレツリ：ラ・フォリア



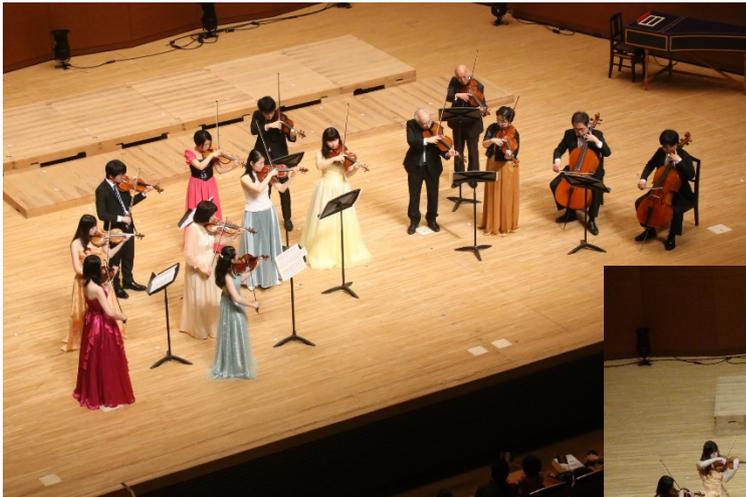
2. プロコフィエフ《ロメオとジュリエット組曲 第2番》より（ダンス公演）



3. イタリア民謡：「帰れソレントへ」「オ・ソレ・ミオ」



4. V. モンティ：チャルダッシュ



○プログラムⅡ ‘V’

1. A. ヴィヴァルディ：《四季》「春」「冬」



2. イタリア・オペラより

プッチーニ：《蝶々夫人》「ある晴れた日に」



プッチーニ：《トゥーランドット》「誰も寝てはならぬ」



ヴェルディ：《椿姫》「乾杯の歌」



3. メンデルスゾーン：交響曲第4番《イタリア》



受付開始！



〇イベント

《Balloon de Valentine》



《Volto・きかんしゃトーマスを走らせよう！》



《箏演奏》



《イタリアのお話 読み聞かせ》



《イタリア展示》



《イタリアクイズ》



《託児》



《楽器体験》～ヴァイオリン ヴィオラ チェロ チェンバロ 箏 管楽器～



